第六章　第五飛行師團作戰經過の概要

第一節　緬甸進攻作戰（自昭和十七年一月～至同年三月）

昭和十七年一月十日師團司令部は比島作戰後蘭東を出發途中三亞（海南島）に中繼し、南方軍總司令部所在西貢に到著新任務を受領す其の要旨左の如し。

師團は泰國及緬甸を作戰地域とし速かに當該方面英米空軍を撃滅し第十五軍の作戰に密に協力すべし

之より機バンコック到著の時を以て第十飛行團（司令部、飛行第七十七、三十一、六十二戰隊）を指揮下に復帰せしめらる

師團長は一月十五日空路バンコックに到著第十飛行團を掌握し且臺灣方面より轉進し來る第四飛行團（司令部、飛行第八、五十、十四戰隊）を纏め二十四日頃迄に泰國内に集結して第十五軍の泰緬甸國境突破作戰開始に先立ち速かに在緬英米空軍勢力を覆滅すべき方策を樹立す一月二十五日頃に於ける部隊の配置概要左の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

師團司令部　バンコック市
第四飛行團司令部　ドンムアン（バンコック）飛行場
飛行第八戰隊　同　右
飛行第十四戰隊　同　右
飛行第五十戰隊　ナコンサワン
第十飛行團司令部　ランパン
飛行第七十七戰隊　同　右
飛行第三十一戰隊　ピサヌロック
飛行第六十二戰隊　ナコンサワン（機動ドンムアン）

師團は第四飛行團司令部の到著を待ち既に該方面に活動中なりし第十飛行團の諸情報に基き一月二十日より飛行第八戰隊司偵隊を以てするラングーン及トングー附近敵航空狀況の捜索を開始し一月末より先つラングーン南北飛行場（南はミンガラドン、北はレグ飛行場）の攻撃を開始せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

北の間第十五軍は一月二十日頃より國境を突破してナセリヤム地區に對する攻撃を開始するに對し第十飛行團をして之が作戰に協力せしむ

一月末以降三月中旬に至る間即ち第十五軍の素綿國境突破後ラングーン陥落に至る迄の作戰經過概要左の如し

一、航空撃滅戰

作戰開始當初敵の空軍の主力はラングーンに、一部はトングーに在りしこと確實にして兩國は一月末より第四第十兩飛行團の戰爆連合部隊を以て先ずラングーンの航空撃滅戰を開始せるも偶〻飛行第十四戰隊一中隊全滅の悲運に會ひ爾後は襲撃輕爆隊を以て敵戰闘機を空中に誘致したる後戰闘隊全力の結集戰力を統合し空中戰闘に依り撃墜成果を收めんとするに勉めたるも然れども逐次第十五軍の作戰進捗し一月三十一日モールメインを完全占領三月一日シッタン河を渡河せんとするに至るや敵空軍地上作戰直協に全力を傾注するあり第

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

五、爆撃隊の戰場上空援護の要請に伴ひ航空撃滅戰實施の爲爆撃隊（重爆輕爆襲撃全部）を以て夜間少數機に依る爆撃と之に連繫せる掃蕩戰闘隊の攻撃とを併用したり

尚本時期九七戰の遠度性能敵戰闘機に一籌を輸せる關係上新式戰闘機二式單戰の一中隊（獨立飛行第四十七中隊）を新に指揮下に入れられたるも當初未慣熟の爲故障續出大なる成果を收め得ずして作戰を終了す

而して二月初旬以來夏にトングー或はバセイン基地に對する攻撃を開始し緬甸に於ける三航空基地を潰滅し三月初旬に至るや敵空軍の實戰力は作戰初頭の半數約六十機程度となりたるが如きも我亦遂次損害を蒙り特に飛行第十四戰隊の如きは二月中旬以降戰力著に等しく遂に機種改變（九七重一型より二型へ）の爲内地へ派遣するに至れり

三、地上作戰協力

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

師團は第十五軍に密接に協力せんが爲　航空撃滅戰の遂行を第一義とし此の間要時要點に於ける敵の攻撃或は戰場上空の警護に任ぜり

三、尙本時期に於て一時アンダマン諸島の狀況偵察を實施す

四、指揮法

師團は常に一令一動的に命令を與へて作戰を指導す而して一月十五日より同月末日の間バンコック、二月一日より三月十五日の間モールメイン爾後ラングーンに在りて戰鬪指揮に任ず

第二節　緬甸航空撃滅戰（昭和十七年三月）

第十五軍は三月上旬ラングーンを完全に占領し第五十五師團を以て軍慶軍をトングー方面に第三十三師團を以て英印軍をイラワジ河に沿ひ急追す師團の航空撃滅戰の成果概ね全しと雖も戰場上空時々敵機の跳梁を見る之より義第十五軍の三月初旬シッタン河を渡河せんとする頃より敵空軍はラシオ、メイミョウ方面或はアキヤブ方面の外イラワジ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

河畔チンドウイン河畔に敵飛行場あるへきを豫察し司偵隊を督勵しマンダレー、ブロームー附近及以北の飛行場を捜索す偶〻第三十三師團のマグウエ附近油田捜索機の寫眞面上に新飛行場二を發見し茲に敵の退避本據を索出し得たり

當時南方軍はジャワ作戦一段落と共に該方面より新に第七飛行團（司令部飛行第一、第十一戦隊）第十五獨立飛行隊（司偵二中隊）飛行第二十七戦隊（襲撃三中隊）を轉用して師團に配屬せらる

茲に於て師團は作戦開始以來の整備を實施しつゝ新鋭增加部隊の來著を待つて一擧に邊存敵航空勢力を覆滅するの企圖の下司偵隊を以て隠密監視の外マグウエに對する攻撃を拘制す

乃ち第七飛行團を先つ泰國に位置せしめ雲南驛方面の在支米空軍の攻撃を擔任せしむると共に第四飛行團を以て適時アキャブ方面の攻撃に任せしめたり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

三月中旬總攻擊發起前に於ける部隊の配置概ね左の如し

師團司令部　ラングトン市インセン

第四飛行團司令部　トングー（南）

飛行第五十戰隊　トングー（南）

飛行第八戰隊　トングー（南）

第七飛行團司令部　バンコック

飛行第六十四戰隊　ミンガラドン

飛行第十二戰隊　ドンムアン

飛行第九十八戰隊　ナコンサワン

第十飛行團司令部　ランパーン

飛行第七十七戰隊　ランパーン

飛行第三十一戰隊　ピサヌローク

（導進準備中）

第十二飛行團司令部　レグ

飛行第一戰隊　レグ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

飛行第十一戦隊　レグ

第十五獨立飛行隊　ミンガラドン

飛行第二十七戦隊　トングー（南）

三月中旬諸部隊の集結完了と共にマグウエ急襲攻撃日次を三月二十一日、二十二日の兩日と定む

三月二十一日朝敵ブレンハイム九機、スピットファイヤー十數機は戰爆連合を以て我が出動の直前ミンガラドン飛行場に來襲するや各部隊は豫め命せられたる所に基き此の敵に追尾態勢を以てマグウエに進攻

當日飛行場上空雨多く爆撃至難を極めたり　雲上爆撃に依り南北滑飛行場を完全に覆ひて在地機を徹底的に爆砕炎上し更に成果を大ならしむる如く翌二十二日攻撃を續行し緬甸に於ける敵空軍を壊滅せり其の戰果約百二十機にして敵戰闘機の一部は辛して西南支那及アキヤブ方面に退避せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三節　緬甸戡定作戦協力（自昭和十七年三月末　至同　五月末）

マグウエの統空撃滅戦に依り敵空軍は一時其の勢力を失ひたりと雖も一部は尚ラシオ等諸駅を基地とし一部はアキャブ方面を根據として遊撃的に第十五軍戦場に出没す一方第十五軍は爾來作戦終了後新に第十八、第五十六兩師團の増加を受けラングーン、トングー、チョーク等概ね中部以南の緬甸を攻略し更に英印及重慶軍を北方に急追し且各所に戡定作戦を實行す

此の間師團は緬甸周邊地區敵空軍の活動を監視しつゝ第十五軍の作戦に緊密に協力す

三月末乃至五月末に於ける師團の配置概ね左の如し

師團戦闘指揮所	トングー
第四飛行團司令部	トングー（一時メイクテイラ）
飛行第五十戦隊	トングー南（一時メイクテイラ）
飛行第八戦隊	右　同

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第七飛行團司令部　　バンコック（トングー）
飛行第六十四戰隊　　ランペーン（トングー北）
飛行第十二戰隊　　ドンムアン（レグー）
飛行第九十八戰隊　　シンガラドン
第十二飛行團司令部　　レグー（トングー）
飛行第一戰隊　　レグー（トングー）
飛行第十一戰隊　　レグー（トングー）
飛行第八十一戰隊　　主力レグー一部トングー
飛行第二十七戰隊　　トングー南
第一挺進團　　ドンムアン（決行時トングー南）

「註」　先ビジャバより轉屬せられたる第十五獨立飛行隊は四月滿洲に轉進し飛行第八十一戰隊（司偵二中隊）新に配屬せられ挺進作戰決行の爲一時第一挺進團を指揮下に入れしめらる

而團はマグウエ航空撃滅戰の準備と併行し第十五軍爾後の地上作戰

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

中重慶軍退路遮斷の爲第十五獨立飛行隊を以てシヤン高原地帶の作戰の爲寫眞捜索を實施せしめ之を三月末に撤成す

四月第十五軍の作戰發起と共に師團は飛行第二十七戰隊を以て專念地上作戰直協に任ぜしめ第四飛行團をして適時之に協力せしむる如く部署すると共に第四、第七、第十二飛行團を以て好機に投じラシオ、アキヤブ飛行場の攻擊に任ぜしむ又第五十六師團のシヤン高原地帶迂回成功してラシオ附近に進出し重慶軍の退路を遮斷せんとするや戰機に投じ空挺部隊の使用を企圖す此の降下地點に關しラシオ方面及シエウエボ方面兩案を研究せられたるも退路遮斷の確定的成果を收むるを第一義としラシオ附近降下案を採用せられ四月二十九日第五十六師團のラシオに近接すると共に師團は配屬第一挺進團（長　久米大佐）に第七飛行團を協力せしめトングー南飛行場を發進せしめたるも目標附近天候不良の爲遂に決行し得ずして作戰を中止するに至れり

本期間航空撃滅戰は特記すべき事項なく師團は隨時來襲する敵を索め

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

て遊撃を部署すると共に適時ランガ、アキャブ方面に進攻せ
（五月二十二日飛行第六十四戦隊長加藤健夫中佐アキャブ方面に出撃
戰死す）又第七飛行團を以て適時西北部印緬國境パレル、インパル
方面の敵軍退路遮斷の爲要地攻撃を實施す。

第四節　師團の昭和十七年度雨季態勢

緬甸戰定協力作戰を終へ五月末雨季到來するや師團は各部隊を馬來方
面に後退せしめ次期作戰準備に邁進せしむ其の部隊配置並に戰力概見
次表の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

部隊名	配置	機種機數	搭乘員
師團司令部	ラングーン	（機）	（人）
第四飛行團司令部	トングー		
飛行第五十戰隊	「昭南」（機種改變）	一式戰 三〇	三〇
飛行第八戰隊	トングー及モールメイン	百偵 七	一五
		双經 七	三〇
第七飛行團司令部	スンゲイバタニー		
飛行第十二戰隊	アロルスター	九七重 二五	一〇〇
飛行第九十八戰隊	スンゲイバタニー	同右 二五	一八〇
飛行第六十四戰隊	ミンガラトン（師團直轄）	一式戰 二五	三〇
第十二飛行團司令部	「昭南」		
飛行第一戰隊	「昭南」	一式戰 二五	三〇
飛行第十一戰隊	「昭南」	同右 二五	三〇
飛行第八十一戰隊（一中缺）	レグ	百偵 七	一五

備考　本表中戰力は七月上旬の概數を示す

次期作戰準備事項の概要概ね左の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

一、訓練

1. 雨季明け後カルカッタ攻撃を目標とする訓練
2. 夜間航法能力向上
3. 空中戦闘能力向上
4. 地上勤務本部除の然任務達成能力向上

二、重爆除の武装強化航続力増加に應する改造

三、緬甸に對する燃彈の輸送

四、可動飛行機數の増加向上の修理及手入の促進

五、飛行場の設定整備完成

第五節　緬甸周邊航空撃滅戦並にアキャブ附近反撃作戦協力（自昭和十七年十月至同年十二月末）

雨季明け直後實施を企圖せるカルカッタの攻撃も雨季間輸送の不圓滑敵英印軍反攻氣運の抬頭等に因し第十五軍に協力の要あると攻撃主力たる重爆機の夜間消燈裝置の實績不完全等により直ちに之を實現する

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

の頃に至らず五に於て師團は緬甸周邊所在敵航空勢力を速かに撃滅すべき企圖の下に先つ戰鬪司令所をメイクテイラに進め西南支那方面及東部印度ベンガル州方面インパール及チタゴン方面の敵航空勢力撃滅を部署す

雨季明け後に於ける師團新態勢の概要左の如し

師團司令部　ランダーン

同戰鬪司令所　メイクテイラ

第四飛行團司令部　メイクテイラ

飛行第五十戰隊　メイクテイラ

飛行第八戰隊　ヘホ

飛行第十四戰隊　スンゲイパタニ（メイクテイラ）

第七飛行團司令部　トンガー

飛行第六十四戰隊　トンガー北

飛行第十二戰隊　アロルスター（ドンムアン）（レグ）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

飛行第九十八戦隊　スンゲイパタニ（チエンマイ）
第十二飛行團司令部　メイミヨウ
飛行第一戦隊　メイミヨウ
飛行第十一戦隊　メイミヨウ
飛行第八十一戦隊　主力レグ　一部メイクテイラ

師團は右態勢より先ずインパール、フエンニー、チタゴン方面の敵空軍を第四、第七飛行師團を以て攻撃せしむると共に第十二飛行團をして西南支那雲南緬方面を攻撃せしめ且ビルマ北部に來襲する敵機を索めて邀撃せしめたり

本期間に於ける敵空軍漸次増加し少數機を以て頻時緬甸國内各地特に交通要點に對するゲリラ的攻撃を實施す師團は重爆隊を馬來、泰に後退せしめて敵の奇襲に對し損害防止を圖りつゝ夕刻前進、拂曉攻撃後進、夕刻基地歸還の戦法を採用せり

又敵英印軍は逐次マレー半島方面に兵力を集中し反攻の徴増加す乃ち師團

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

は第十五軍と緊密なる連繫の下適時第四飛行團をして該方面の作戰に協力せしめたり

本期末期に於ては在支米空軍に對する印支航空路に依る輸送愈々活潑化す乃ち十二月之が中間基地たるテンスキアに對する攻撃を敢行し多大の戰果を收めたり

十二月南東諸島方面の狀況切迫に伴ひ第十二飛行團及飛行第十四戰隊を該方面に抽出轉用せられたり

第六節　緬甸周邊航空撃滅戰並に地上作戰協力

（自昭和十八年一月至同年五月）

昭和十七年末頃となるや敵の緬甸奪回の企圖は顯著となり其の方向は西南支那怒江方面に或は東部印度マユ半島方面に指向せらるゝものゝ如し在緬甸部隊は空地を問はず警備態勢を強化し新作戰準備に邁進せり

即ち十八年初頭マユ半島方面に於ては蒼蠅反撃失敗の後再び英印空軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

の反攻あり第十五軍は二月反撃作戦を開始してマレー半島を席捲し敵を遠くチタゴン方面へ後退せしめ西南支那方面に於ては怒江左岸に溢出せる重慶部隊を随所に撃破せり

又印支空路の敵の行動愈々活潑化し二月には在立米義勇飛行隊は米第十四航空隊に編成を改変し（長チェンノールト少將）其の勢力漸増す印度方面に於ても米空軍逐加して、遂次英空軍を変駕せんとし英空軍は地上作戦方面たるアコーラ、チタゴン以東主としてマレー半島方面に配置せらる而して此等敵空軍の攻撃目標は補給線遮断を主とし一部を以てラングーンの要地攻撃及飛行場の攻撃に指向せられたり

師團は右の如き狀況に應じ概ね當配置の態勢を以て抬頭せる緬甸周邊地區敵空軍を撃滅すると共に第十五軍の作戦に密に協力する如く作戦を指導せり

一、航空撃滅戦

本時期に於ては特に前期に於て國境周邊近距離所在飛行場の攻撃に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

終始せるを更め比較的奥地（攻撃威力圏最大限活用）の敵を捕捉せんと企圖せり即ち四月五月には昆明を再度に亘り攻撃して米空軍の漸減を圖り本土空襲抑制に寄與せり

又近距離敵根據地に對しては二月三月に亘りテンスキア印支空路中繼基地を空襲して輸送機二十數機を屠りフエンニー、シルチア、バタルブール、コックスバザー、ドハザリ雲南驛各飛行場を連攻し其の都度相當の成果を收めたり此の間第十五軍のマユ半島反擊作戰を利用し基地の推進情報入手地點の前進を行ひカルカッタ空襲作戰を準備せり

三、地上作戰協力

十二月末以來引續き第四飛行團を以てアキヤブ方面第五十五師團の作戰に協力二月第十五軍マユ半島方面へ反擊作戰を開始するに及び師團は航空撃滅戰の間隙を利用し第四飛行團を以てチタゴン（含む）以南第七飛行團を以てチタゴン附近を攻撃夫々第五十五師團の

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

作戦に密接に協力せり

三、防　空

敵航空勢力の増勢に伴ひ緬甸圏内に對する來襲漸増の一途を辿り左の如く主目標を交通遮断の政略要地の攻撃に指向せり

1. 政略要地　ラングーン、メイミョー

2. 交通要點　アキャブ、ホーク、タウンガップ、カレワ、マニラ、トングー、マダウエ、マンダレー、ラチドン、モールメイン、

3. 生産（油）要地　チョーク

而して之に連繋してラングーン、トングー、メイクテイラ附近航空基地に對しても隨時來襲度を増加せり然るに帝國は全般に亘る防空兵力僅少なりしを以て交通戦は主として地上火器の防空に依存しラングーン市及飛行場の防空に專任の戦闘隊を常置するに止むるの止む得ざりき而して各主要飛行場は所在戦闘隊及飛行團大隊の保有

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

對空火器を以て防空に任ぜしめたり

第七節　昭和十八年度雨季態勢

五月末雨季に入るや師團は乾季間の連續作戰に依る戰力の恢復第十二飛行團等の南東方面抽出に依る後方整理等の爲次期乾季作戰を目標とし夫々部隊を後退して雨季態勢に入りたるも敵機の來襲愈〻繁く戰鬪隊は海上輸送の掩護又はラングーン附近の防空に憑整隊は一部スマトラに派遣して第九飛行師團の指揮下に入りサバン西方の海上及バガン南方の海上哨戒に一部は戰鬪隊と共に船團對潛警戒の任に就きたり

六月第三航空軍編成せられ師團は其の戰鬪序列に入り泰緬甸を作戰地域として與へられ作戰訓練上隨時飛印及馬來を使用し得ることゝなれり

雨季間に於ける師團の態勢概ね左の如し

師團司令部　ラングーン

第四飛行團司令部　トングー

飛行第五十戰隊　ミンガラドン（一「昭南」）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

飛行第　八戰隊　トングー（スンゲイバタニ）

第七飛行團司令部　スンゲイバタニ

飛行第六十四戰隊　ミンガラドン（スンゲイバタニ）

飛行第十二戰隊　メダン及サバン

飛行第九十八戰隊　パダン

飛行第八十一戰隊　レグ（スンゲイバタニ）

第七章　教育訓練

作戰間及雨季間を問はず訓練に關し師團の企圖せし事項概ね左の如し

一、熟練者未熟者の別なく部隊空中勤務者の空中勤務技能を向上し部隊戰力の發揮に遺憾なからしむること

二、裝備機種器材の性能を知悉し極度に其の性能を發揮すること

三、緬甸の雨季は特に之を活用し未修者の技能向上は勿論特に次期作戰指導の要綱に基き訓練すること

從來師團に對する空中勤務者の補充は航空本部よりする直接補充及南

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan